

農業① 四万十次世代モデルプロジェクト(四万十町)

- 【H29の主な取組】 ※プラン策定 (H29.3)
- 1次：野菜苗の出荷開始(4月～)、トマトの出荷開始(9月～)、新たな雇用：約100名
 - 2次：新たな加工品開発に向けて検討
 - 3次：道の駅、直販所等との連携や観光分野等での可能性検討
新たなトマト加工品の試作と絞り込み(4.5月)
・商品化に向けたデザイン、PR方法や、ブランディング、販売方法などを検討(6月～)
・地元でのトマト加工品のお披露目イベントの開催

【H30年度上半期の取組状況と課題】
次世代団地におけるトマトの安定生産と新たな加工品開発への具体的取組検討

- ▼取組状況
- 1次：・前作で発生した病害株の調査と対策の勉強会実施(4月～6月)
・春の農繁期の雇用確保について協議(5月～)
 - 2次・3次：
・新たなトマト加工品のふるさと納税返礼品での展開や学校給食等での活用

- ▼課題
- ・バイオマスエネルギーの安定確保と培地・残さを有効活用できる体制づくり
 - ・トマト加工品の販路の具体化

- 【H30年度の今後の取組予定】
- 1次：・社員研修会による病害対策の徹底、高温期の安定生産、寡日照下での小玉化対策の徹底
 - 2次・3次：商工会や観光協会との連携

農業⑦ 四万十ポークブランド推進プロジェクト(四万十町)

- 【H29の主な取組】 ※プラン策定 (H27.3)
- 1次：新設及び補改修した豚舎による出荷頭数の増等
 - 2次：四国DFが県版HACCPステージ2取得(H30.1)
" 新商品「豚まん」販売開始(H29.10)
 - 3次：加工・直販所及び飲食店売上高：83,050千円(H30.3末)
雇用者数：1人(H27) → 27人(H29)

【H30年度上半期の取組状況と課題】
年間出荷頭数の増加、営業活動等による販路の拡大

- ▼取組状況
- 1次：防疫研修会の開催、農場HACCPの推進
 - 2次・3次：
・四万十ポークブランド推進協議会総会を開催
・四国DFが新商品「無添加ハンバーグ」販売開始

- ▼課題
- ・畜舎の老朽化、環境問題への対応
 - ・豚加工品の安定生産と販路拡大

- 【H30年度の今後の取組予定】
- 1次：・高能力優良種豚の導入・増頭による出荷頭数の増頭
・豚の疾病対策強化、事故率の低減
・平野共同畜産に養豚糞コンポスト導入(H31.3末)
 - 2次・3次：
・四万十町の地域資源を活用した加工品の生産ライン拡大に向けた計画作成(関連：高幡地域AP13)
・四万十ポークの精肉・加工品をふるさと納税返礼品として県内外へ発送
・イベントや商談会等へ参加し、四万十ポークを周知

農業⑨ 四万十の栗プロジェクト(四万十町)

- 【H29の主な取組】 ※プラン策定 (H29.1)
- 1次：栗生産面積及び生産量
H27:13ha、0.7t
→H32：19ha、11.6tに拡大
 - 2次：1次加工所の整備 (H29.9月下旬完成)
ペースト生産量：0t→3.8t
 - 3次：地元関連事業者と連携し、観光分野の取組内容を協議

【H30年度上半期の取組状況と課題】
栗ペースト加工施設の整備とチーム活動による栗の生産性の向上

- ▼取組状況
- 1次：・栗再生プロジェクト推進協議会の開催
・剪定技術者による講習会を実施(6月)
 - 2次：アドバイザーによる栗ペーストの製造指導、中長期的な加工事業戦略の検討

- ▼課題
- ・栗の剪定技術など、栽培技術の理解を深める必要がある
 - ・四万十町の次世代団地の残さを堆肥化し、栗の生産に活用する体制づくり

- 【H30年度の今後の取組予定】
- 1次：・特選栗を生産する農家(意欲的農家)対象の選果
・講習、剪定講習会、剪定技術者による現地検討会の開催
 - 2次・3次：WGの組織化、観光分野との連携を推進

水産業③ 宇佐・浦ノ内水産資源活用クラスタープロジェクト(土佐市、須崎市)

- 【H29の主な取組】
- 1次：アサリ垂下式養殖の採算性検討を開始
潮干狩り復活に向け大規模被せ網を実施
 - 2次：浦ノ内住民自主組織が観光客向け弁当を試作
 - 3次：浦ノ内釣筏渡船振興会が釣筏の利用拡大に向けて小中学校への営業や須崎市観光協会との協議を実施

【H30年度上半期の取組状況と課題】
市町村によるクラスタープラン策定を支援

- ▼取組状況
- 全体：農山漁村振興交付金の承認
- 1次：・アサリ資源の回復に向けたモニタリング、被せ網等を実施
・アサリ垂下式養殖の採算性を検証
・潮干狩りの再開に向けて天皇州の一部を試験開放予定
 - 2次：高知海洋高校が地元水産物の消費拡大を目的としたウルメイワシの加工品開発や試食会を実施
 - 3次：浦ノ内釣筏渡船振興会が須崎市観光協会と連携した教育旅行の受入れを実施

- ▼課題
- ・土佐市及び須崎市の連携強化
 - ・渚泊事業の円滑かつ効果的な実施

- 【H30年度の今後の取組予定】
- 全体：土佐市プラン案の推進、須崎市プラン案の選定
- 1次：潮干狩り、垂下式養殖の採算性等の検討
 - 2次：・ウルメイワシ加工品の観光商材としての活用の検討
・アサリの食害種(アカエイ等)の加工品の開発
 - 3次：・渚泊事業を活用した観光事業のブラッシュアップ
・釣筏の旅行商品化と周辺観光との連携

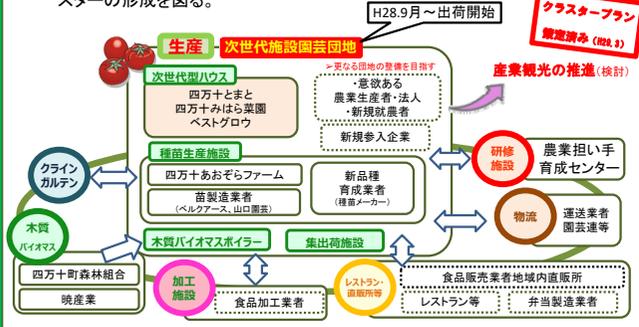
(注) 図中の点線で囲んでいる部分は想定です。実現に向けて、生産者団体や事業者、市町村等の関係者の皆様と検討を重ねていきます。

地域産業クラスターの形成 (展開図) ①

【農業】

① 四万十次世代モデルプロジェクト(四万十町)

・次世代施設園芸団地でのトマト生産を核として、バイオマス供給施設、種苗供給施設、農産品加工・販売業者、地元レストラン等が連携し、クラスターの形成を図る。



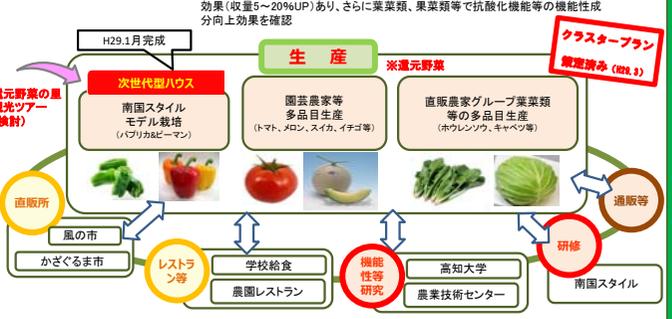
② 日高村トマト産地拡大プロジェクト(日高村)

・日高トマト生産団地の拡大の取り組みを核として、中山間複合経営拠点(※)の整備も併せ、関連するJA出荷場、農産品加工施設、直販所、地元レストラン等が連携し、クラスターの形成を図る。



③ 南国市還元野菜プロジェクト(南国市)

・JA出資型法人「南国スタイル」を中心として、「還元野菜(※)」の生産拡大を図るとともに、関連する直販所や農園レストラン等と連携した還元野菜販売や、メニュー提案等を実施することにより、還元野菜の里づくりを目指す。



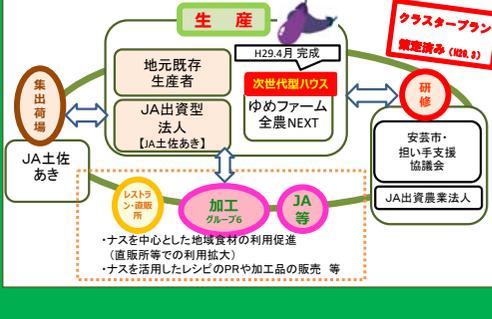
④ 日本一のニラ産地拡大プロジェクト(香南市・香美市)

・日本一の生産量を誇るJA土佐香美の生産拡大を目指し、3つの生産拡大プロジェクトに取り組むとともに、食品関連会社等の誘致を視野に入れた新たな加工品の開発、地元飲食店でのメニュー開発等により、クラスターの形成を図る。



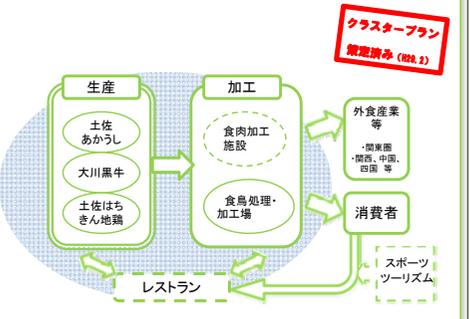
⑤ 日本一のナス産地拡大プロジェクト(安芸市)

・県東部の基幹品目であるナスの生産拡大を図るとともに、地域の直販所や飲食店等での利用促進、ナス料理や加工・特産品の消費拡大に取り組むことにより、クラスターの形成を図る。



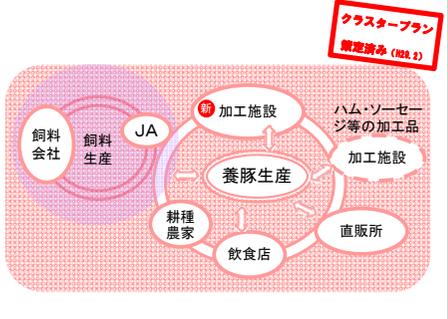
⑥ 横北畜産クラスターによる地域の活性化(横北地域全域)

・「土佐あかうし」「大川黒牛」「土佐はちきん地鶏」のさらなる生産拡大と6次産業化による付加価値の向上を図る。また、さくら湖や山岳岳頂を活用したスポーツツーリズムにより観光振興・交流人口の拡大を図りながら、レストラン事業の展開も検討する。



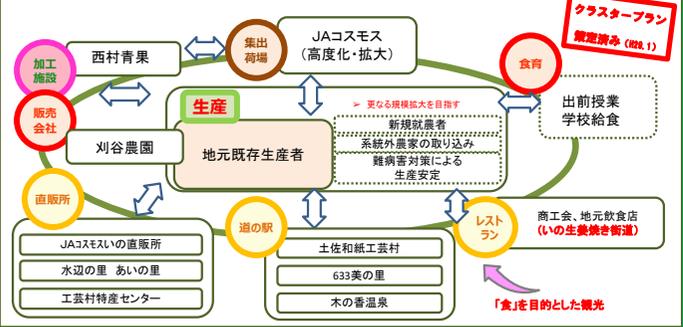
⑦ 四万十ポークブランド推進プロジェクト(四万十町)

・養豚農家の生産基盤の強化を図るとともに、関係機関が連携し安心安全な四万十ポークを消費者に安定供給できる体制を構築し、新たな6次産業化ビジネスの展開とあわせて地域の所得向上につなげる。



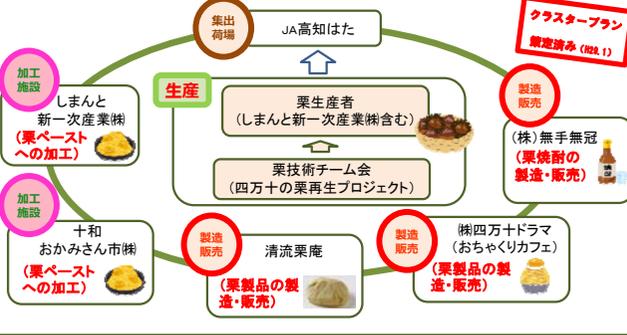
⑧ いの町生鮮生産・販売拡大プロジェクト(いの町)

・いの町の生鮮生産農家を中心として、生鮮の集出荷場整備と併せ、地元加工業者や直販所、道の駅、学校及び商工会等が連携し、クラスターの形成を図る。



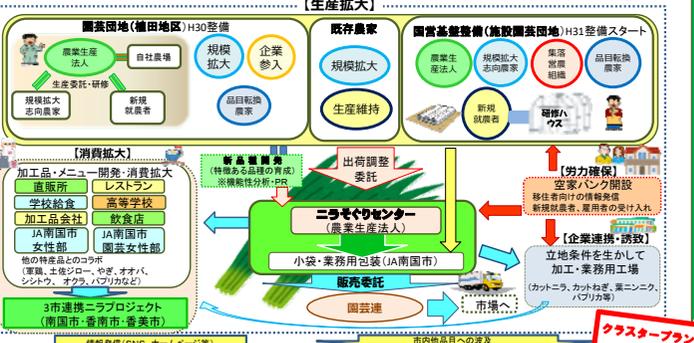
農業⑨ 四万十の栗プロジェクト(四万十町)

・四万十の栗再生プロジェクト協議会を中心として栗の生産拡大を図るとともに、ペースト加工施設、カフェ、栗焼酎販売会社等が連携し、クラスターの形成を図る。



農業⑩ 日本一のニラ産地拡大プロジェクト(南国市)

・農業生産法人が運営するそぐりセンターを活用し、地元農家や企業参加による生産拡大を図るとともに、直販所、レストラン、商工会等が連携し、クラスターの形成を図る。



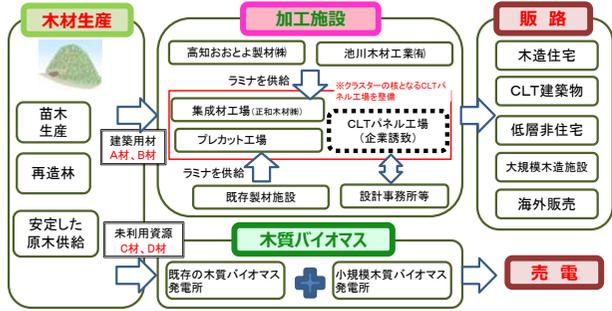
(注) 図中の点線で囲んでいる部分は想定です。実現に向けて、生産者団体や事業者、市町村等の関係者の皆様と検討を重ねていきます。

地域産業クラスターの形成 (展開図) ②

【林業】

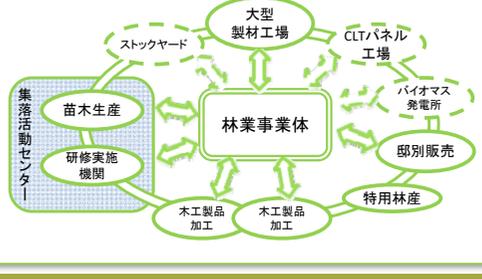
① 林業・木材産業クラスタープロジェクト(県下一円)

・木材加工を核として、木材生産から販売・再生産までの好循環を生み出す。



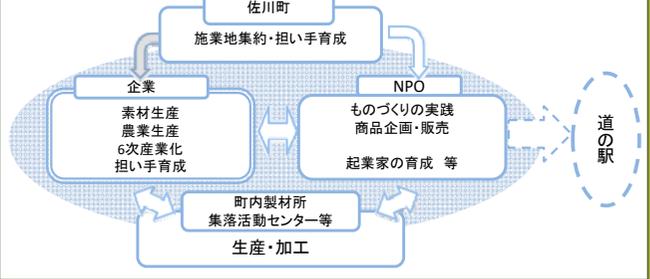
② 嶺北地域の林業クラスターによる地域の活性化(嶺北地域全域)

・嶺北地域の豊富な森林資源を余すところなく活用し、地域経済の活性化につなげる。



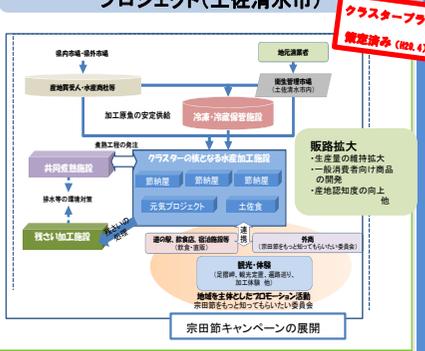
③ 佐川町で展開する自伐型林業での木材産業クラスター(佐川町)

・自伐型林業の取り組みを中心に、担い手の育成確保を含めた自伐型林業のビジネスモデルづくりのほか、町産材等を使ったモノづくりの人材育成や拠点整備、道の駅等の整備により町内の6次産業化を進める。

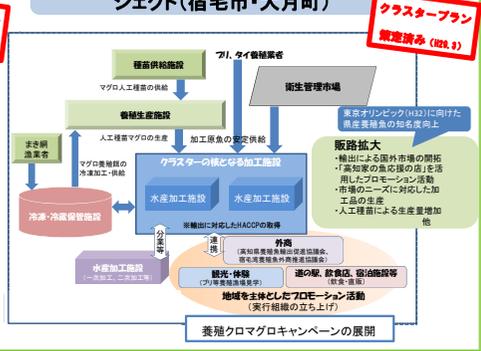


【水産】

① 土佐清水水産加工産業クラスタープロジェクト(土佐清水市)

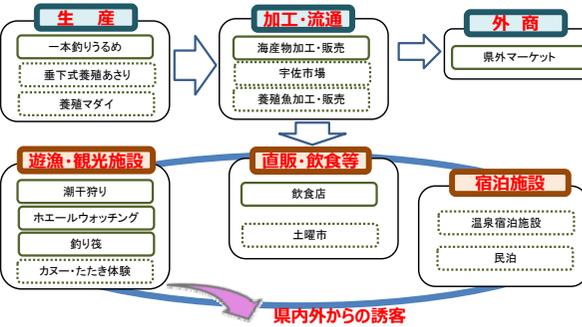


② 宿毛・大月養殖ビジネス高度化プロジェクト(宿毛市・大月町)



③ 宇佐・浦ノ内地区水産資源活用クラスタープロジェクト(土佐市・須崎市)

・うめいわし、あさり、ブランド真鯛の水産資源を活用した加工業や、ホエールウォッチング、釣り筏などの遊漁、周辺の宿泊施設等が連携してクラスターの形成を図る。



【食品加工】

① 加工・業務用野菜の産地化プロジェクト(県下一円)

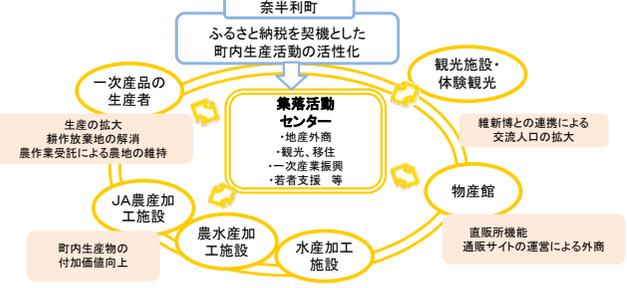
・需要が増加傾向にある「加工・業務用野菜」の産地化を進め、マーケットイン型の商品開発や「生産・加工・流通・販売」までの新たな仕組みの構築に取り組む。



【その他】

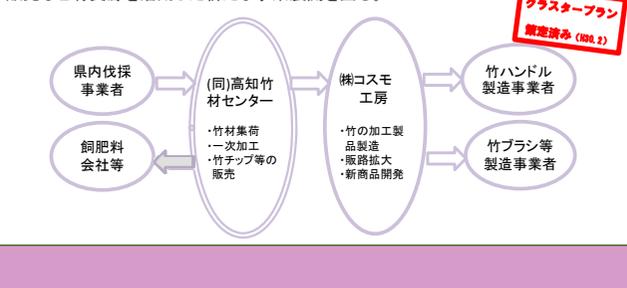
奈半利町の集落活動センターを中心としたクラスター(奈半利町)

・集落活動センターを拠点として、奈半利ブランドの確立と地域の所得向上につなげる。



竹資源の活用による中山間地域の新たな産業の創出(高知市)

・県産竹材を活用した製品加工の拡大とともに、竹材の集荷や一次加工、竹チップの販売など竹資源を活用した新たな事業展開を図る。



株式会社フードプラン、仁淀川町等を中心としたカット野菜事業クラスター(仁淀川町)

・新工場整備によって生産能力を向上させ、県外量販店や大手惣菜製造工場との取引拡大を図る。あわせて、流域食材のブランド化による観光振興、加工・業務用野菜の産地形成を推進する。

